

平成23年度(2011)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター一年報

平成24年8月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成23年度  
花・野菜技術センター年報  
目 次

**I 総 説**

1. 沿 革	1
2. 位置及び土壌	2
3. 用地及び利用区分	2
4. 機 構	2
5. 職 員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建 物	5
8. 施設及び備品	6

**II 作 況**

1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7

**III 事業の推進方向と成果の概要**

1. 研究部	11
2. 技術普及室	13

**IV 試験研究及び地域支援等活動の課題名**

1. 花き野菜に関する試験	14
2. 栽培環境に関する試験	16
3. 病害虫に関する試験	17
4. 技術体系化に関する試験	18
5. 地域支援に関する試験等	18

**V 研修事業の概要**

1. 概要	19
2. 研修事業の推進	19
3. 北海道花き・野菜技術研修	19
4. 研修ほ場作付概要	23

**VI 研究発表並びに普及事項**

1. 研究報告・資料	24
2. 印刷刊行物	26
3. 普及事項	27

**VII その他**

1. 職員の研修	28
2. 見学・参観	28
3. 研修生の受け入れ（研修事業以外）	29
4. 委員会活動	29
5. 公開デー2011の実施	30
6. 講師等の派遣	30
7. 各種委員	31

**VIII 自己点検への対応**

自己点検への対応	33
----------	----

# I 総 説

## 1. 沿革

### (1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、道立農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術の改善および生産物の流通技術等に関する試験研究を効率的に推進する。また、技術普及・研修では、開発された新技术を重点的、かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」も改正、4月に職員も配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

### (2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設され、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

### (3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

### (4) 技術普及及び研修体制と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに普及・研修業務がある。平成8年度より研修は総務部、技術普及は専門技術員室で所管していたが、平成12年度に技術普及部が新設され普及・研修業務を所管することとなった。平成22年度の独法化に伴う組織改正により、研修業務を担う技術研修グループが研究部に新設され、普及業務には普及指導員の駐在する技術普及室が設置された。

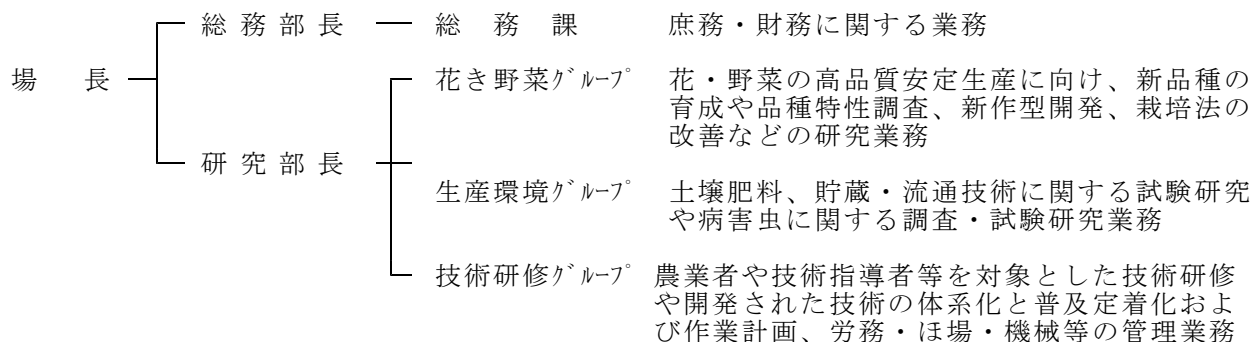
技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技术の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施することとしている。長期的な

専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力を得て、さらには外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が設置され、研修担当者が配置され平成8年度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、更に、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員及び研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。また技術体系化チームが研究部と技術普及部で組織され新技術の普及推進体制が平成12年に整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により普及指導員への移行と道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。また、平成22年度には、独法化に伴う組織改正での技術普及部の廃止により、技術普及室が設置され道所属の普及指導員が駐在し連携普及業務を担っている。

その他、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

#### 4. 機 構 （平成24年3月31日現在）



（花・野菜技術センター技術普及室＊）

上席普及指導員 — 主任普及指導員

＊ 北海道農政部食の安全推進局技術普及課

## 2. 位置及び土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35′ 東経141° 59′

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にバーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

## 3. 用地及び利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

## 5. 職 員

### (1) 職員数 (平成24年3月31日現在)

区 分	場 長	部 長	総 務 課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究 (プロパー)	1	1		8	8	3	21
研究支援 (プロパー)						5	5
研究支援 (道派遣)		1	5			2	8
計	1	2	(兼務1外数) 5	8	8	10	34

### (2) 現職員名簿 (平成24年3月31日現在)

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名	
総務部	場 長	中野 雅章	生産環境G	研 究 主 査	田丸 浩幸	
	総 務 部 長	山石 祐次	〃	研 究 主 任	野田 智昭	
	総 務 課	総務課長(兼)	〃	〃	大塚 省吾	
	〃	主査(総務)	〃	主査(病虫)	橋本 直樹	
	〃	主査(調整)	〃	研 究 主 任	西脇 由恵	
	〃	指 導 主 任	〃	〃	野津 あゆみ	
	〃	〃	技術研修G	研 究 主 幹	大久保 利道	
	〃	主 任	〃	主査(技術研修)	小田 義信	
	研究部	研 究 部 長	長尾 明宣	〃	指 導 主 任	梶山 幸道
	花き野菜G	研 究 主 幹	田中 静幸	〃	〃	及川 忠
〃	主任研究員	生方 雅男	〃	〃	玉川 忠	
〃	主査(花き)	黒島 学	〃	主 任	南 貴夫	
〃	研 究 主 任	大宮 知	〃	〃	寺口 佳孝	
〃	主査(野菜)	福川 英司	〃	主査(技術研修)	鈴木 亮子	
〃	研 究 主 任	大久保進一	〃	主査(研修)	得能 撤	
〃	〃	八木 亮治	〃	指 導 主 任	佐藤 勝宏	
〃	〃	木村 文彦				
生産環境G	研 究 主 幹	角野 晶大	(道技術普及室)	上席普及指導員	川名 淳二	
〃	主査(栽培環境)	林 哲央	〃	主任普及指導員	高橋 恒久	

### (3) 転入・採用

職 名	氏 名	採用転入年月日	備 考
研究部 花き野菜G 研究主任	木村 文彦	23. 4. 1	上川農業試験場
研究部 技術研修G 主査(研修)	得能 撤	23. 6. 1	留萌振興局商工労働観光課

**(4) 転出・退職**

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
研究部 花き野菜G 研究主任	地 子 立	23. 4 . 1	上川農業試験場
研究部 技術研修G 主査(礫)	井 上 昇	23. 6 . 1	出納局集中業務室
研究部 技術研修G 指導主任	梶 山 幸 道	24. 3 . 31	退職

**6. 収入支出決算額****(1) 収入決算額**

(単位：円)

科 目	決 算 額
農 産 物 売 払 収 入	88,504
法 人 財 産 使 用 料 等	373,879
共 同 研 究 費 負 担 金	1,975,000
国 庫 受 託 研 究 収 入	7,900,000
道 受 託 研 究 収 入	2,631,000
そ の 他 受 託 研 究 収 入	11,925,000
計	24,893,383

※事業費支弁人件費振替額を含む

**(2) 支出決算額**

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦 略 研 究 費	5,000,000	5,000,000	0	0
重 点 研 究 費	3,580,000	3,323,094	256,906	0
経 常 研 究 費	13,958,000	13,958,000	0	0
技 術 普 及 指 導 費	5,669,000	5,666,335	0	2,665
研 究 用 備 品 整 備 費	1,082,855	1,082,855	0	0
目 的 積 立 金 活 用 事 業 費	6,745,900	6,745,900	0	0
維 持 管 理 経 費	118,357,000	117,331,406	0	1,025,594
運 営 経 費	13,441,750	13,441,750	0	0
共 同 研 究 費	2,500,000	2,500,000	0	0
国 庫 受 託 研 究 費	7,208,000	7,206,285	0	1,715
道 受 託 研 究 費	2,631,000	2,631,000	0	0
そ の 他 受 託 研 究 費	10,846,000	10,842,226	0	3,774
計	191,019,505	189,728,851	256,906	1,033,748

※事業費支弁人件費振替額を除く

## 7. 建物

### (1) 現有（平成24年3月31日現在）

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86 m <sup>2</sup>
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室－1	〃	166.00
〃－2	〃	166.00
〃－3	〃	166.00
野菜温室－1	〃	166.00
〃－2	〃	166.00
〃－3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室－1	〃	290.25
〃－2	〃	290.25
環境制御温室－1	〃	166.00
〃－2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟－1	〃	29.16
〃－2	〃	29.16

< 続き >

名 称	構 造	面 積
総務課物置 3	木造平屋	26.49 m <sup>2</sup>
〃 4	〃	26.49
〃 5	〃	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93

## 8. 施設及び備品

### (1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
該当なし					

### (2) 新たに購入した備品 (50万円以上)

品 名	数量	規 格 及 び 型 式	金 額	配 置
人工気象器	2	日本医科器械製作所 LPH-240SP	2,570,400	生産環境G
軽貨物自動車	1	ダイハツハイゼット多目的ダンプ	1,100,245	花き野菜G
くだもの専用糖度計	1	(株)クボタ K-BA100R	1,417,500	花き野菜G
施設園芸用温風暖房機	3	ネポン(株)HK2027TCV	2,058,000	花き野菜G
圃場管理機	1	ヤンマー(株)MK105FWK	700,000	技術研修G



## Ⅱ 作 況

### 1. 気象概要

#### (1) 冬期間の経過

根雪始は11月29日で平年より6日遅かった。冬期間（11月～3月）の気温はやや高く推移した。とくに11月中旬から12月下旬の最高気温は2.2～4.1℃、同じく2月上～下旬は1.7～3.0℃平年より高かった。降水量は11月上旬に多かったが全般に少なかった。日照時間は、11月中下旬、12月上旬はやや多く、11月上旬、12月上中旬は少ない傾向であった。根雪終は4月18日で平年より7日遅かった。根雪期間は141日間で平年より2日長かった。

#### (2) 農耕期間の経過

晩霜は5月16日で平年より3日遅く、初霜は10月28日と平年より9日遅かった。無霜期間は164日と平年より7日長かった。

農耕期間（5月から9月）の平均気温は5月上中旬がやや低かったほかは、並から高い傾向で推移した。とくに、7月上旬から9月上旬までは高く推移した。農耕期間の積算気温は2743.7℃で平年の104%であった。

降水量は4月下旬、5月上旬、7月中旬、8月中旬、9月上旬が多かった。とくに9月上旬は平年の389%の降雨があった。また、7月下旬、8月上旬は寡雨であった。農耕期間を通しての積算降水量は840mmで平年の161%であった。

日照時間は5月上旬、9月中旬は少なかったが、5月下旬、7月下旬、8月上旬、8月下旬は多かった。農耕期間の積算日照時間は803.1時間で平年の99%であった。

本年の農耕期間の気象は、7月上旬から9月上旬の高温、4月下旬、5月上旬、7月中旬、8月中旬、9月上旬の多雨、7月下旬、8月上旬の寡雨が特徴的であった。

#### (3) 月別の経過

4月：平均気温は中旬が低く、上・下旬は並であった。降水量は下旬に多かった。日照時間は上旬に多く、下旬は少なかった。

5月：平均気温は上中旬が低かった。降水量は上旬が多かった。日照時間は上旬が少なかった。

6月：平均気温は平年並みであった。夏日は9日あった。降水量は平年並みであった。日照時間は中・下旬がやや少なかった。

7月：平均気温は上旬が高く、中・下旬は並であった。夏日が17日、真夏日は3日であった。降水量は中旬が多かった。日照時間は下旬がやや多かった。

8月：平均気温は上旬が高かった。夏日は21日、真夏日は6日であった。降水量は中旬に著しく多かった。日照時間は上旬がやや多かった。

9月：平均気温は上が高かった。夏日は7日、真夏日は1日あった。降水量は上旬に著しく多かった。日照時間は中旬がやや少なかった。

10月：平均気温は上旬が低かった。降水量は下旬がやや多かった。日照時間は並であった。

## 2. 野菜類の生育状況

### (1) メロン（対象品種：「ルピアレッド」）

定植期である4月下旬は日照時間が少なかったが、気温が平年並みであり活着は順調であった。開花期以降も多雨で日照時間が少なかったことからハウス内の湿度が高く、菌核病が発生し、一部の品種で被害株がやや多かった。収穫期でもこの傾向は変わらず、加えて気温が平年より高くなったことから果実肥大が旺盛で平均一果重は2.2kgと平年より重かった。また、収穫期も早まったことから糖度が13.3度と平年より低かった。

### (2) かぼちゃ（対象品種：「えびす」）

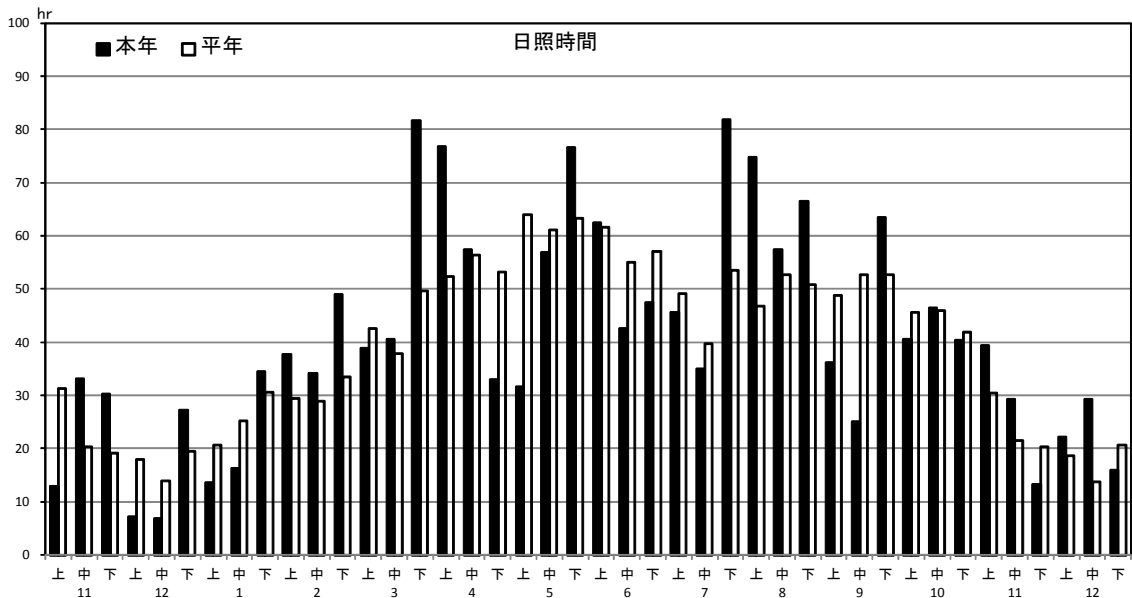
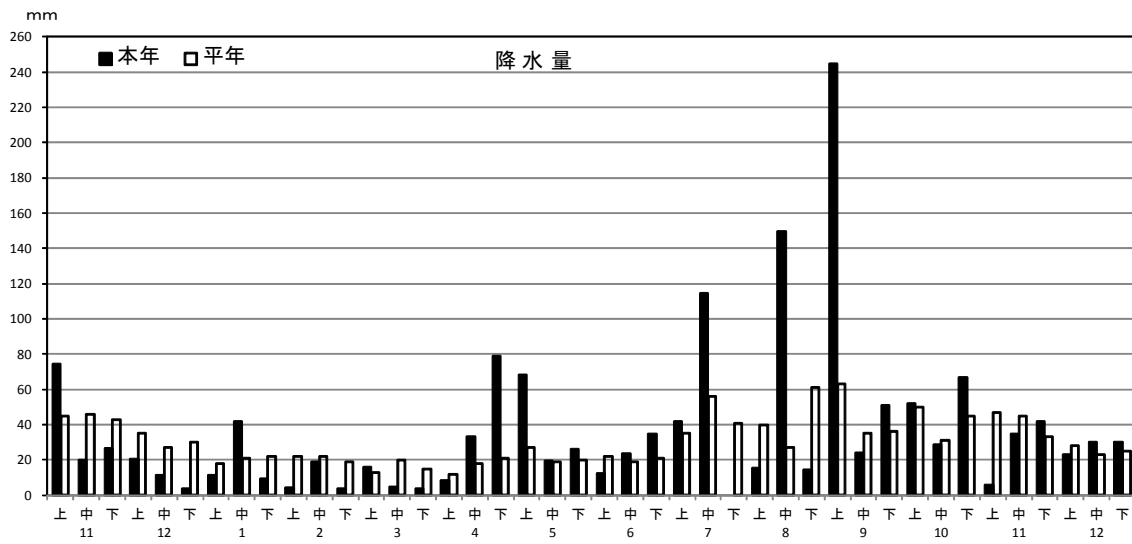
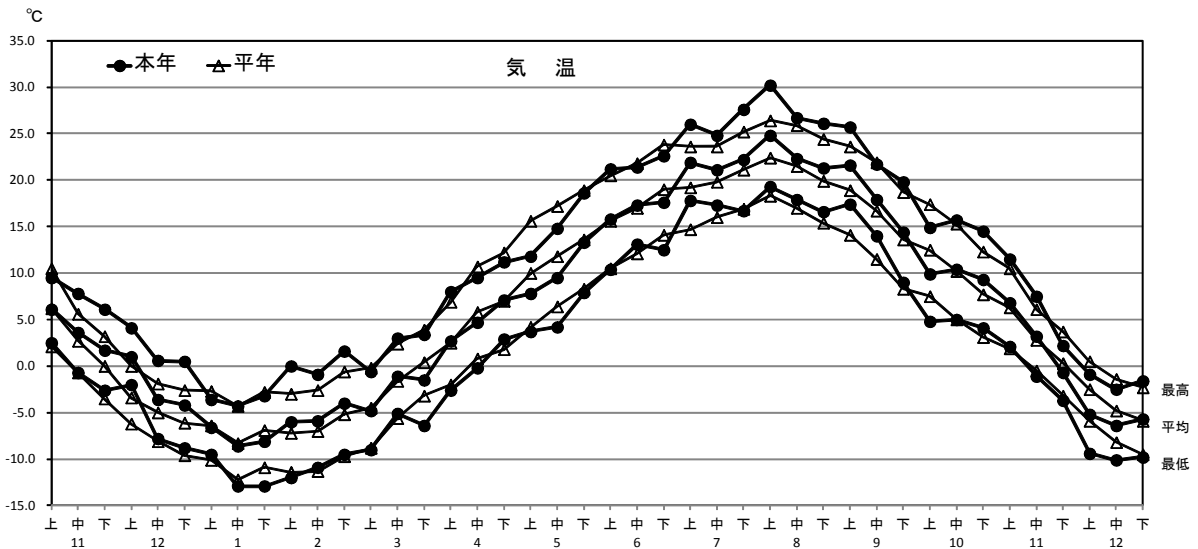
6月15日定植のセル成型育苗による露地早熟作型で栽培した。定植期の6月中旬の降水量および気温は平年並みであり、活着は順調であった。しかし、その後、開花期である7月中旬まで降水量が多く日照時間も少なかったことから生育は軟弱徒長気味であった。7月中旬と8月中旬は降水量が極めて多く湿害が発生し、更に褐斑細菌病が多発したことから、乾物率が16.8%と平年より低くなる等、内部品質は平年より劣った。一株あたりの着果数は平年並みであったが、平均一果重が2.3kgと重かったため、良果収量は262kg/aと平年よりやや多かった。

### (3) いちご (対象品種：「けんたろう」)

平成22年8月16日定植の無加温半促成作型の土耕で栽培した。積雪下越冬後、平成23年2月21日にハウスのビニール被覆を行った。融雪後の3月28日からトンネル被覆を行った。4月上～中旬は気温が平年並であったものの、融雪が遅かったことが影響し、開花始は4月21日と平年よりやや遅くなった。4月下旬～5月中旬は気温が低く、さらに日照時間が短かったため、収穫始は5月24日とやや遅くなった。収穫果数は平年並～やや少なかったが、小玉傾向であったため、総収量は 183kg/aと平年より少なくなった。

### (4) たまねぎ (対象品種：「スーパー北もみじ」)

播種期は3月8日、定植期は5月12日の普通作型で栽培した。移植後の活着および初期生育は順調であった。リン酸肥沃度の低い新畑であったため、リン酸を増肥したものの、球肥大は遅延し、肥大期は例年より半月程度遅れた。8月中旬および9月上旬に降水量は多かったが、湿害の影響はみられなかった。また、適期防除により病害虫の顕著な被害も認められなかった。倒伏期は8月22日で、平年より14日遅かったものの、規格内収量は606kg/a (平年比116：圃場変更により参考値) で本年の作況は良好であった。



平成23年度滝川気象図



## III 事業の推進方向と成果の概要

### 1. 研究部

#### (1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。野菜では、いちご・メロンの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。花きおよび野菜ともに、技術研修Gの技術研修を分担する。

「既存畦畔へのグラウンドカバープランツ導入効果確認試験」では、前課題（平成19年指導参考事項）で有望と判断された宿根草の適応性と維持管理法を検討し、追肥が不要であること、通常の刈り払い管理で被覆維持が可能であることを明らかにした。また、新たにワイルドストロベリー等が有望と判断されたことから、成績公表した。

「花き品種の適応性比較試験（アスター（ハウス・夏咲き）」では、8月9日に審査会を実施し、「ステラホワイト」が一等特別賞となった。

「宿根かすみそうの新品種に対応した高収益栽培体系の確立」、「初夏どり枝物花き（スノーボール・テマリシモツケ）の栽培体系の確立」、「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」、「地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価」、「水平埋設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプによる園芸用ハウスへの適用」、「花持ち保証に対応した切り花の品質管理技術の開発」、「景観植物の導入試験」等の試験課題を継続あるいは開始した。

「北海道向け民間育成かぼちゃ品種の特性調査」では、民間育成の黒皮系かぼちゃ品種および系統について生育・収量性・品質の特性に加え、10℃における貯蔵性および貯蔵後の食味を評価して指導参考事項となった。また、北海道農政部食の安全推進局農産振興課所管の北海道野菜活力強化推進事業において「北海道ブランド品種」の認定の際の基礎資料として活用された。

「水分撥水防止剤「ワターイン」のたまねぎ機械移植体系育苗における灌水浸透効果の確認」では、たまねぎみのる式育苗において播種灌水時に透水不良が懸念される場合に用いることで発芽促進・生育揃いが促され、移植精度の向上につながることが認められ、指導参考事項となった。

「いちご多収性春どり品種育成および疫病抵抗性素材の作出」、「赤肉メロン品種の耐病性強化」、「いちご、かぼちゃ、たまねぎの育成系統評価に係る栽培、調査業務」、「野菜地域適応性検定（いちご、メロン、たまねぎ）」、「カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発」、「北海道向け民間育成メロン品種の特性調査」、「トマトの秋季安定生産に向けた3段密植栽培技術の確立」、「野菜栽培へのヒートポンプ導入試験」、「たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術の実証・普及」等の試験課題を継続あるいは開始した。

#### (2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

**栽培環境に関する試験:**①「リン酸施肥削減のための有機物中リン酸評価法および局所施肥法の開発」では、にんじんにおける圃場への有機物施用およびキャベツにおけるリン酸の育苗ポット内施肥や圃場での局所施肥が収量やリン酸吸収量に与える影響を調査した。②「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」では、現地圃場での土壌養分実態、品種別の乾物生産と窒素吸収量および品種別の窒素基肥用量と分施の影響を調査した。③「生理障害診断試験」では、9件の診断依頼に対応した。④「ハウス窒素肥沃度の総合評価による道産野菜の硝酸塩低減化技術の開発」では、ハウス内土壌の熱水抽出性窒素とほうれんそうの収量や窒素吸収量との関係を調査するとともに、熱水抽出性窒素に基づいて減肥した処理区の収量性や硝酸塩濃度を調査した。⑤「北海道向け民間育成メロン品種の特性評価」では、15品種系統につき、加工適正としての果実品質(糖度、スクロース濃度)、可食部の歩留まり、ドリップ量を調査した。⑥「カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発」では、露地抑制作型試験での3播種期×3品種、および高貯蔵性育成系統の特性評価試験での6品種・系統につき、腐敗果発生率や乾物率等を調査した。⑦「キャベツに対する被

覆肥料(セラコート)・苦土炭カル入りBB肥料の施用効果」では、当該資材のうね幅全層施肥におけるキャベツの生育や収量を調査するとともに、被覆肥料の溶出特性を温度条件を変えた室内試験と圃場試験により調査した。⑧「短節間かぼちゃに対する肥効調節型肥料の効率的施肥法の確立」では、3タイプの肥効調節型肥料を用い、短節間かぼちゃの果実収量と品質や着果揃い期における窒素吸収量、および栽培跡地の無機態窒素量を調査した。⑨「ハウス軟白ネギに対するけい酸加里肥料の施用効果」では、肥料形態や量を変えた4処理区について、ネギの生育、収量、収穫時の無機養分含有量を調査するとともに、栽培期間中の土壤化学性の推移を調査した。⑩「農業資材試験」では、2点の肥料資材についてその効果を調査した。

**病害虫に関する試験：**①「採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立型新採苗方式の確立」では、各増殖段階の苗の炭疽病保菌状況を調査し、従来のリレー苗方式よりも感染リスクが低いことを確認した。②「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」では、現地圃場および場内での無防除栽培圃場(従来品種との比較)での病害虫発生状況を調査した。③「トマト褐色根腐病の多発要因解明による持続的防除体系の開発」では、本病の多発要因や被害が大きくなる原因を明らかにするとともに、発病及び菌量増加軽減対策と栽培前期の発病リスク軽減対策を組み合わせた総合防除対策を確立し、「トマト褐色根腐病の多発要因解明および総合防除対策」として普及推進事項となった。④「農作物病害虫診断試験」では、144件の診断依頼に対応した。⑤「アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対する総合防除対策」では、場内での放虫試験や現地圃場試験において被害実態、発生消長、産卵越冬場所の調査を行うとともに、有効薬剤や産卵植物除去による耕種的防除対策の効果を検討した。⑥「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病、予察灯によるヨトウガ等、フェロモントラップによるコナガについて、時期ごとの発生量などを調査した。⑦「クリーン農業による環境保全効果の指標となる天敵生物の選定」では、中央農業試験場、上川中央農業試験場、北見中央農業試験場、十勝中央農業試験場と共同で、水稻、小麦、大豆、キャベツにおいて、クリーン農業等減農薬栽培における環境保全

効果を示す指標種をそれぞれ選定するとともに、それら指標種を観察するマニュアルを作成し、「天敵生物の発生量増加によるクリーン農業の環境保全効果の確認」として指導参考事項となった。⑧「たまねぎ突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立」では、灰色腐敗病多発に対する施肥や灌水の影響および防除適期や回数を調査するとともに、現地での発生状況や栽培・防除暦を調査した。⑨「新規接ぎ木法による地域条件に適応したトマト土壤病害総合防除技術の開発」では、花き野菜グループと共同で、本葉第二葉より上の節位で接ぎ木する高接ぎ木について、青枯病に対する発病抑制効果の向上を確認するとともに、高接ぎ木苗の作成・管理方法と土壤還元消毒との組み合わせ防除体系への導入方法を確立し、「高接ぎ木法によるトマト青枯病の耕種的防除対策の強化」として普及推進事項となった。⑩「イチゴ健全種苗生産のための病害検査プログラムの構築」では、炭疽病に対する原種の全株検定および出荷苗のロット検定をnested-PCR法により行うとともに、新たに開発された萎黄病と疫病のPCR検定について北海道の菌株や土壤に対する有効性と問題点を検討した。⑪「農業資材試験」では、殺菌剤16点および殺虫剤8点についてその効果を調査した。また、複数事例で有効性が認められた12点の資材が指導参考事項となった。

### (3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について各研究グループとチームを組んで体系化試験を実施するとともに、地域で解決が必要な技術的課題について、行政、普及、研究の三者が共同してプロジェクト課題として取り組んでいる。

**体系化試験：**①「いちご高設栽培における低コスト培地としてのもみがら資材の実証」では、「未粉碎もみがら資材」でも指導参考となった「粉碎もみがら資材」と同等の生産性があることを示した。

**プロジェクト課題：**①「スターチス・シアヌータの水稻育苗後ハウス利用における6月定植9月彼岸切り作型の確立」では、最終摘芽日から採花に到る積算気温について検討した。また、マルチによる地温抑制効果、細霧冷房によるハウス内温湿度への影響調査ならびに生産性・経済性調査を

実施した。

## 2. 技術普及室

### (1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業及び農業大学の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局及び関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

### (2) 成果の概要

#### 1) 技術体系化チーム活動支援

本年度は次の2課題の支援に取り組んだ。①「いちごの高設栽培における低コスト培地としてのもみがら資材の実証」（道費）では、もみがらと市販培土を積み重ねる方式による生産資材費の低コスト化を実証支援した。②「ホワイトアスパラガス伏せ込み栽培技術の現地実証」（道費）では、伏せ込み資材のもみがら実用化にむけた調査活動を支援した。

#### 2) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・支庁と連携し専門場の研究及び普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策について積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地区の課題解決プロジェクト及び花きの課題解決プロジェクトにも参画した。

#### 3) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する補完要請計画に基づき支援した。また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点課題、一般課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。さらに、気象災害や突発的な病虫害発生対策について、特に、本年は「異常高温対策」について技術普及課及び各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術セン

ターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（野菜）、高度専門技術研修（野菜）、高度専門技術研修（花き）について技術普及室のほか研究部からの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

#### 4) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における講義・実習及び運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による経営管理研修や担い手基礎研修、農大稲作経営コース集中講義の研修に支援を実施した。

#### 5) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、生産者組織や関係機関・団体からの要請への支援等を行った。

## IV 試験研究及び地域支援等活動の課題名

### 1. 花き野菜に関する試験

#### (1) 宿根かすみそうの新品種に対応した高収益栽培体系の確立 (213211)

試験期間：平成21～24年

担当G：花き野菜G

目的：新品種の夏秋期出荷に向けた適正な栽培法を確立する。

#### (2) 初夏どり枝物花き（スノーボール、テマリシモツケ）の栽培体系の確立 (213221)

試験期間：平成22～24年

担当G：花き野菜G

目的：初夏どりが可能な枝物（スノーボール・テマリシモツケ）の道内での栽培特性を明らかにし、これに基づく栽培体系を確立し、栽培マニュアルを策定する。

#### (3) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発 (213231)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：無側枝性輪ぎくの秋季出荷作型における開花調節法、肥培管理法および病害虫対策技術を確立する。

#### (4) 地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価施設 (313431)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G

目的：道内の民間企業が開発した地中熱交換システムについて施設園芸（野菜、花き）での利用方法、効率的な冷房、暖房方法の検討、作物に対する冷房、暖房効果の確認を行う。

#### (5) 水平埋設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプシステムの園芸用ハウスへの適用 (513231)

試験期間：平成23年

担当G：花き野菜G

目的：施設園芸向けの水平埋設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプシステム開発に向けて、トルコギキョウ栽培への冷房効果の予備的

試験を行う。

#### (6) 冬期における水平埋設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプシステムの園芸用ハウスへの適用 (513232)

試験期間：平成23年

担当G：花き野菜G

目的：施設園芸向けの水平埋設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプシステム開発に向けて、冬期間の伏せ込みアスパラガス栽培において予備的試験を行う。

#### (7) 花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の開発 (623221)

試験期間：平成22～24年

担当G：花き野菜G

目的：花持ち保証販売を可能とするため、切り花の高温による品質低下機構を解明するとともに、様々な品目に対応した品質管理技術の開発を目的とする。

#### (8) 既存畦畔へのグラウンドカバープランツ導入効果確認試験 (723211)

試験期間：平成21～23年

担当G：花き野菜G

目的：既存畦畔へのグラウンドカバープランツを導入する地域で当センターでの成果を元に導入品目を選定し、維持管理法を検討する。

#### (9) 景観植物の導入試験 (723212)

試験期間：平成21～23年

担当G：花き野菜G

目的：一度定植すれば長期間生育し、毎年の育苗や、耕起の必要のない、管理の容易な宿根草を利用することを目的とし、長期にわたり景観と圃場を維持することのできる景観植物の導入試験を実施する。

#### (10) 花き品種の適応性比較試験 (723231)

試験期間：平成23年



担当G：花き野菜G、技術研修G

目的：本道に向けた民間の品種開発が活発な品目について、適応性の比較検討を行い、本道に適した優良な新品種の選択及び導入、普及の促進に資する。

**(11) いちご多収性春どり品種育成および疫病抵抗性素材の作出 (213301)**

試験期間：平成20年～24年

担当G：花き野菜G

目的：高い果実品質を有し、安定多収な春どり系統を育成する。また、疫病抵抗性育種の効率アップのために育種素材の作出、夏秋どり有望系統の評価も併せて実施する。

**(12) 赤肉メロン品種の耐病性強化 (513301)**

試験期間：平成20年～24年

担当G：花き野菜G

目的：民間種苗会社との共同研究により、土壌病害に抵抗性を持ち、北海道で安定して栽培できる高品質な赤肉品種を育成する。

**(13) いちご、かぼちゃ、たまねぎの育成系統評価に係る栽培、調査業務 (713331)**

試験期間：平成23年

担当G：花き野菜G、北見農試

目的：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構において育成された、いちご、かぼちゃおよびたまねぎ系統について、道内における標準栽培法によりその適応性を検討する。

**(14) 野菜地域適応性検定（いちご、メロン、たまねぎ） (213300)**

試験期間：昭和63年～

担当G：花き野菜G、上川農試、道南農試、十勝農試、北見農試

目的：育成系統について各地域における適応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

**(15) 北海道向け民間育成メロン品種の特性評価 (333331)**

試験期間：平成23～24年

担当G：花き野菜G、生産環境G、上川農試

目的：民間種苗会社と提携して民間育成品種の評価を行い、北海道向けブランド品種を選定する。

**(16) カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発 a. 北海道の露地抑制作型における栽培法の開発と貯蔵性との関係解明 (623332)**

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：かぼちゃの端境期である12～1月の出荷に向け、北海道道央地区における露地抑制作型の収穫限界を明らかにするとともに、本作型で懸念される一果重の低下を回避する栽培法を開発し、また(独)農研機構北海道農業研究センターが育成した高貯蔵性系統の本作型における適応性を検討する。

**(17) トマトの秋季安定生産に向けた3段密植栽培技術の開発 (213333)**

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G、中央農試

目的：高単価が期待できる9月以降に収穫を開始し第3果房まで収穫する3段密植栽培技術の開発を行うとともに、開発技術の導入による経営改善効果を検証する。

**(18) 北海道向け民間育成かぼちゃ品種の特性調査 (333321)**

試験期間：平成22～23年

担当G：花き野菜G、道南農試、上川農試

目的：民間種苗会社と提携して民間育成品種の評価を行い、北海道向けブランド品種を選定する。

**(19) 水分撥水防止剤「ワターイン」のたまねぎ機械移植体系育苗における灌水浸透効果の確認 (723321)**

試験期間：平成22～23年

担当G：花き野菜G

目的：水分撥水防止剤「ワターイン」の灌水浸透処理が発芽や生育・収量に及ぼす影響を調査し、機械移植精度への効果も併せて確認す

る。

**(20) たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術の実証・普及 (325631)**

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、北見農試

目的：有機栽培用育苗培土（平成22年指導参考事項）の普及・定着を図るべく、残された課題を解決し、培土を安定的に固化させ移植精度をさらに高める方法を提示する。

**(21) 野菜栽培へのヒートポンプ導入試験 (723313)**

試験期間：平成21～23年

担当G：花き野菜G

目的：空気熱源で除湿もできるヒートポンプの性能評価（冷暖房、除湿）とトマト作への導入効果について検討する。

**(22) 除草剤および生育調節剤 (729400)**

試験期間：昭和40年～

担当G：花き野菜G

目的：野菜に対する除草剤の実用性を検討する。

## 2. 栽培環境に関する試験

**(1) リン酸施肥削減のための有機物中リン酸評価法および局所施肥法の開発 (125921)**

試験期間：平成22年～24年

担当G：生産環境G

### 目的

堆肥など地域で産出される各種有機物に含まれるリン酸の肥効を的確に評価し施肥リン酸の減肥につなげる、局所施肥向け肥料の開発により施肥リン酸の利用率向上・施肥量削減を図る。

**(2) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の確立 (213231)**

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

### 目的

輪ぎくの秋季出荷作型における開花調節法、

病害虫対策技術、肥培管理法を確立する。

**(3) 農作物病害虫診断試験 ②生理障害診断試験 (216500)**

試験期間：平成8年～

担当G：生産環境G

### 目的

農業改良普及センター、農政部普及指導員を通じて当場に診断を依頼される農産物の生理障害による異常障害などを迅速に診断して、被害を最小限にとどめるための適切な対策を策定する。

**(4) ハウス窒素肥沃度の総合的評価による道産野菜の硝酸塩低減化技術の開発 (325312)**

試験期間：平成21年～24年

担当G：生産環境G

### 目的

従来の土壌硝酸態N評価に土壌熱水抽出性N評価を合わせた新たな窒素肥沃度の評価法を確立し、ほうれんそう等の硝酸塩低減化を図る。

**(5) 北海道向け民間育成メロン品種の特性評価 (333331)**

試験期間：平成23～24年

担当G：花き野菜G、生産環境G

### 目的

行政・普及・農業試験場・市町村機関が連携して民間育成品種の特性を評価し、カット販売用品種を選定する。また、北海道野菜活力強化推進事業のなかで、「北海道ブランド品種」を認定する。

**(6) カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発 (623332)**

試験期間：平成23年～25年

担当G：生産環境G、花き野菜G

### 目的

露地抑制作型における収穫期頃の積算温度・最低気温や果実の貯蔵性の成分変化を調査し、貯蔵性との関係を解明し、道央地区における露地抑制栽培の収穫限界時期を明らかにする。また、当作型での一果重の低下を回避するための

栽培法や高貯蔵性な新育成系統の適応性を検討する。

**(7) キャベツに対する被覆肥料(セラコート)・苦土炭カル入りBB肥料の施用効果 (725323)**

試験期間：平成22～24年

担当 G：生産環境G

**目的**

キャベツ栽培において石灰欠乏から来る収量および品質の低下を軽減するとともに、分施作業を省力化して肥料コストを低減するため、うね幅全層施肥における被覆肥料(セラコートR15)・苦土炭カル入りBB肥料の効果を検討する。

**(9) 短節間かぼちゃに対する肥効調節型肥料の効率的施肥法の確立 (725324)**

試験期間：平成22年～23年

担当 G：生産環境G

**目的**

短節間カボチャの養分吸収特性に対応した肥効調節型肥料による効率的施肥法を開発し、分施の省略と収量の安定化を図る。

**(10) ハウス軟白ネギに対するけい酸加里肥料の施用効果 (725331)**

試験期間：平成23年～25年

担当 G：生産環境G

**目的**

ハウス栽培における軟白ネギの収量および品質に対するけい酸加里肥料(園芸用細粒タイプ)の施用効果を評価する。

**(11) 農業資材試験 (729400)**

試験期間：昭和45年～継続

担当 G：生産環境G

**目的**

肥料および土壌改良材の野菜に対する実用性について検討する。

**3. 病害虫に関する試験**

**(1) 採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立型新採苗方式の確立 (126331)**

試験期間：平成23～25年

担当科：生産環境G、中央農試

**目的**

茎頂培養親株を元に、採苗施設と水田転換畑を組み合わせたいちごの自立型新採苗方式において、病害の感染リスク評価と媒介虫動態の解明に基づく病害虫管理マニュアルと栽培マニュアルを組み合わせた優良親株栽培マニュアルを作成し、その有効性を実証する。

**(2) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定生産技術の確立 (213231)**

試験期間：平成23～25年

担当科：生産環境G、花き野菜G

**目的**

輪ぎくの需要が大きい秋季出荷作型を対象に、開花調節法、肥培管理法および病害虫対策を確立する。

**(3) トマト褐色根腐病の多発要因解明による持続的防除体系の開発 (216302)**

試験期間：平成20年～23年

担当科：生産環境G、中央農試

**目的**

トマト栽培先進地域で発生が目立つ褐色根腐病について、多発要因を解明、抵抗性台木の評価方法を確立し、土壌消毒効果の維持拡大技術を開発することにより、持続性の高い防除体系の確立を目指す。

**(4) 農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診断試験 (216500)**

試験期間：昭和50年～継続

担当科：生産環境G

**目的**

突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し蓄積する。

**(5) アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対する総合防除対策 (326331)**

試験期間：平成23～25年

担当科：生産環境G

## 目 的

アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対して、発生生態の解明ならびに耕種的防除も含めた総合的な防除対策を確立する。

### (6) たまねぎの突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立 (426331)

研究期間：平成23～26年

担 当 科：生産環境G

## 目 的

たまねぎで突発的に多発する灰色腐敗病およびべと病の多発条件を明らかにし、効率的な防除体系を確立する。当場では灰色腐敗病を担当している。

### (7) 病害虫発生予察調査 (426500)

研究期間：昭和16年～継続

担 当 科：生産環境G

## 目 的

各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。当場ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

### (8) クリーン農業による環境保全効果の指標となる天敵生物の選定（キャベツ） (426513)

研究期間：平成21～23年

担 当 科：生産環境G

## 目 的

殺虫剤使用回数を削減した減農薬栽培における害虫と天敵種の発生状況を調査し、天敵種の回復を通して減農薬栽培の持つ環境保全効果を確認する。

### (9) 新規接ぎ木法による地域条件に適応したトマト土壌病害総合防除技術の開発 (626311)

研究期間：平成21～23年

担 当 科：生産環境G

## 目 的

青枯病に対して、新規接ぎ木栽培法に還元消毒及び酵母抽出液処理を組み合わせることで、より安定した栽培体系を検討する。

### (10) イチゴ健全種苗生産のための病害検査プログラム構築 (626312)

研究期間：平成21～23年

担 当 科：生産環境G

## 目 的

炭疽病、萎黄病、疫病の検査マニュアルを作成し、健全種苗生産システムを構築するため、北海道の輪換畑を利用したリレー種苗生産において、病害検査プログラムの実証と問題点の抽出を行う。

### (11) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤 (729400)

研究期間：昭和45年～継続

担 当 科：生産環境G

## 目 的

新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

## 4. 技術体系化に関する試験

### (1) いちご高設栽培における低コスト培地としてのもみがら資材の実証 (314125)

試験期間：平成22～23年

担当科：技術研修G

目 的：水稲栽培に使用した農薬のいちごへの移行がもみがら資材利用の問題点である。このため、籾殻資材を利用していちごを生産し、安全性を検証する。

## 5. 地域支援に関する試験等

### (1) スターチス・シアヌータの水稲育苗後ハウス利用における6月定植9月彼岸切り作型の確立

調査期間：平成22年～23年

担当科：技術研修G、技術普及室

目 的：水稲育苗後ハウス土壌は低pHであり、品種によっては生育が悪い。品種の特性、採集摘芽日から採花に到る気温との関係等について整理する。

## V 研修事業の概要

### 1 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

### 2 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等に対し事業説明を実施するとともに、各種見学説明会等を開催したほか、円滑な研修の実施に資するため、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、実施・運営等についての検討・調整を行った。

#### (1) 研修事業説明の経過

- 5月13日  
平成23年度農業部会総会・第1回学校研究協議会（北海道高等学校長協会農業部会）
- 6月20日  
岩見沢農業高校（来場）
- 7月15日  
北海道大学大学院移動講義
- 8月5日  
農業大学校学生
- 10月24日  
新・農業人フェア2011（札幌会場）
- 1月20日  
新規参入予定者（新規参入者研修(農大)）
- 1月23日  
新規参入予定者（ベーシックセミナー）
- 2月20日  
平成23年度地域農業技術センター連絡会議研究交流会

#### (2) 専門委員会開催内容

##### 1) 研修事業運営委員会の構成

（平成23年4月現在）

委員長 大久保利道（技術研修G主幹）  
副委員長 小田義信・鈴木亮子（技術研修G）  
委員 深瀬秀太郎・小田文子（総務課）、黒

島学・福川英司（花き野菜G）、林哲  
央・橋本直樹（生産環境G）

ワザンバー 川名淳二（上席普及指導員 技術普及室）、高橋恒久（主任普及指導員 技術普及室）

事務局 井上昇・佐藤勝宏（技術研修G）

#### 2) 開催内容

##### ○第1回委員会（4月5日）

###### 議題

- ・協議事項  
（1）要領等の改正について  
（2）その他

##### ○第2回委員会（2月2日）

###### 議題

- ・協議事項  
（1）新技術セミナーについて

##### ○第3回委員会（3月22日）

###### 議題

- ・報告事項  
（1）平成23年度研修事業実績について  
（2）平成24年度総合技術研修受講者について
- ・協議事項  
（1）平成23年度研修事業（案）について  
（2）平成24年度総合技術研修カリキュラム（案）について

### 3 北海道花き・野菜技術研修

#### (1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的に、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

##### 1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	1名
野菜栽培コース	2名
土壌肥料コース	} 2名
病害虫コース	
合 計	5名

## 2) 専門技術研修受講者及び研修内容

氏名	所属	期間	主な研修内容
伊藤俊輔 遠藤大輔	法人	5/16～7/15	土壌診断・病害虫防除 技術習得
伊藤茂	拓大	7/29～8/18	野菜栽培技術習得
原口多喜子 原口一和夫	農業者	11/16～11/18	アスパラガスの技術習得

## (2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

### 1) 期間

4月8日～10月7日（6ヶ月間）

### 2) 受講者数

野菜コース 5名

### 3) 総合技術研修修了者

氏名	所属等	備考
上田 正直	江別市	野菜コース
青木 梢	札幌市	野菜コース
香西 静江	滝川市	野菜コース
森岡 大地	函館市	野菜コース
伊澤 裕	浦河町	野菜コース

## 4) 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時間
講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌肥料(林主査(生産環境G))</li> <li>・病害虫防除(角野研究主幹、橋本主査、西脇研究主任(生産環境G))</li> <li>・施設資材利用等(土肥外部講師)</li> <li>・主要野菜栽培技術等 (田中研究主幹、福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、高橋主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G))</li> <li>・養液栽培の基礎(大塚研究主任(生産環境G))</li> <li>・土壌改良等(野田研究主任(生産環境G))</li> <li>・鮮度保持等(田丸研究主査(生産環境G))</li> <li>・経営管理(外部講師)</li> <li>・クリーン農業(外部講師)</li> <li>・農業金融制度(柴係長(空知総合振興局))</li> <li>・その他(中野場長、川名上席普及指導員(技術普及室)、田中主幹(花き野菜G))</li> </ul>	野菜 63時間
実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要野菜栽培等(田中研究主幹、福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、高橋主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G))</li> <li>・施肥設計(野田研究主任(生産環境G))</li> <li>・病害虫防除技術(角野研究主幹、橋本主査、西脇研究主任(生産環境G))</li> </ul>	野菜 73時間
栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要野菜の栽培管理(野菜15品目(講師は講義・実習と同じ))</li> <li>・ハウス組立(南主任ほか)</li> </ul>	野菜 596時間
視察等	卸売市場、先進農家等	野菜 20時間
その他	ミーティング、報告書作成等	野菜 116時間
合計		野菜 868時間

### (3) 基礎技術研修（ベーシックセミナー）

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

#### 1) 期間

花きコース 1月23日～1月27日（5日間）

野菜コース 1月23日～1月27日（5日間）

#### 2) 受講者数

花きコース 2名

野菜コース 12名

#### 3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き・野菜栽培概論	花き 2時間 野菜 2時間	生方主任研究員、 田中主幹(花き野菜G)
主要品目の栽培技術	花き 10時間 野菜 10時間	花き(生方主任研究員、 黒島主査、大宮研究 主任(花き野菜G)、 鈴木主査(技術研修G)) 野菜(福川主査、大久 保研究主任、八木研 究主任、木村研究主 任(花き野菜G)、高橋 主任普及指導員(技術 普及室)、小田主査、 黒島主査(技術研修G))
土壌改良と施肥管理	2時間	林主査(生産環境G)
病虫害防除	2時間	角野主幹、橋本主査(生 産環境G)
施設・資材の利用技術	2時間	土肥外部講師
花きの輸送と鮮度保持	花き 2時間	黒島主査(花き野菜G))
野菜の流通と内部品質	野菜 2時間	(野田研究主任(生産 環境G))
経営管理概論	3時間	内山外部講師
新規就農者の経営事例		農業者ほか
総合討論	2時間	〃 ほか
その他(講話、技術開発と 普及)	2時間 2時間	中野場長、川名上席 普及指導員(技術普及 室)
計	花き野菜 各 29時間	

### (4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受け入れ研修を実施した。

#### ○新技術フィールドセミナー（ミニトマト）

花・野菜技術センターが開発した技術の普及を図るため、栽培を行っているほ場において、新技術の紹介を行った。

日時 平成23年6月24日（金）

場所 花・野菜技術センター 講堂、ほ場

内容

・摘房及び側枝葉利用によるミニトマト秋季安定生産技術

(講師：花き野菜グループ 大久保進一研究主任)

受講者数 27名

#### ○フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援と研修修了者・現研修生の情報交流を目的に開催した。

日時 平成23年6月24日（金）

場所 花・野菜技術センター 講堂

内容

・事例報告、意見交換

・話題提供

受講者数 16名

#### ○花・野菜新技術セミナー2012

平成23年度に新たに開発した品種や栽培技術などの研究成果を農業関係者などに対し発表し、速やかな普及定着を図るため開催した。

日時 平成24年2月23日（木）

場所 たきかわ文化センター 小ホール

内容 平成23年度の成績会議で普及奨励若しくは指導参考事項等となった技術（品種）等の伝達

報告課題の内訳

①貯蔵性と食味に注目！かぼちゃ品種は使い分けよう

花・野菜技術センター 花き野菜G 主査 福川英司

②もみガラを使ったホワイトアスパラガス伏せ込み栽培

花・野菜技術センター 花き野菜G 主査 黒島学

③北海道の自然のめぐみ「春掘りにんじん」

花・野菜技術センター 生産環境G 研究主任 大塚省吾

④水田畦畔へのグラウンドカバープランツ導入指針

(パート2)

花・野菜技術センター 花き野菜G 主任研究員 生方雅男

⑤トマト褐色根腐病、あなたの圃場は大丈夫ですか？

花・野菜技術センター 生産環境G 研究主任 西脇由恵

⑥きゅうり褐斑病に困っていませんか？

～栽培方法と農薬散布で総合的に防除しよう～

上川農業試験場 生産環境G 主査 長濱恵

⑦青枯病からトマトを守る「高接ぎ木法」

花・野菜技術センター 生産環境G 研究主任 野津あゆみ

農業改良普及センターからの調査研究事例の紹介

①スイカの黄化葉症状改善に関する検討事例

空知農業改良普及センター 北空知支所

技術主幹 渡邊公平

受講者 124名

## (5) 市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜及び当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

### ○市民園芸セミナー

日時 平成23年5月19日(水)

場所 花・野菜技術センター講堂

内容

・自家菜園の作り方

(講師：技術普及室 高橋恒久主任普及指導員)

・「ガーデニングの楽しみ方」の紹介

(講師：技術研修グループ 鈴木亮子主査)

参加者数 33名

### ○フラワーデザインセミナー

日時 平成23年8月3日(水)

場所 花・野菜技術センター(講堂)

内容

・押し花額づくり教室

(講師：花工房「雅」 浅井万紀子氏)

参加者数 30名

## (6) その他の研修

○農業大学校(稲作経営専攻コース)研修生受入

## 事業

日時 平成23年8月2日～8月5日

場所 花・野菜技術センター

内容 花・野菜技術センターの概要

参加者数 10名

### ○自治体職員教育交流研修員受け入れ事業 (滝川市国際交流事業)

日時 平成23年8月9日～8月10日

場所 花・野菜技術センター

内容 野菜栽培概論等

参加者数 2名

### ○試験研究体験ゼミナール(インターシップ)受入事業

日時 平成23年9月5日～9月9日

場所 花・野菜技術センター

内容 研究補助、作業体験等

参加者数 2名(学生)

### ○農業大学校(新規参入者研修)研修生受入事業

日時 平成24年1月17日～1月20日

場所 花・野菜技術センター

内容 講義(園芸の最新技術と農業経営の現状)ほか

参加者数 31名



#### 4 研修ほ場等作付概要

※総合技術研修共通栽培品目のみ

区分	品 目	品 種	作 型
野菜	トマト	桃太郎ファイト、キャロル10	半促成
		桃太郎ファイト、麗夏、キャロル10、アイコ	ハウス雨よけ夏秋どり
	かぼちゃ	えびす、こふき、伊賀の忍まる、伊賀の忍たま、TC2A(ほっとけ栗たん)	露地早熟
	レタス	シルル、マイヤー	春夏まき
	スイートコーン	みわくのコーンゴールドラッシュ、味来390	露地直はん
	たまねぎ	スーパー北もみじ、北早生3号	春まき
	キャベツ	アーリーボール、藍春ゴールド	晩春まき
	ほうれんそう	サイクロン、ブライトン	春夏まき雨よけ
	だいこん	夏つかさ、晩抽喜太一	春まき
	メロン	ルピアレッド、G08	無加温半促成
	いちご	ほほえみ家族、エッチェス138(夏美)	夏秋どり(高設栽培)
	ピーマン	さらら、みおぎ、T197	半促成
	アスパラガス	ウエルカム、ガインリム	露地 ハウス立茎
	ブロッコリー	サマーポイント(YQ505)、スターラウンド	晩春まき
	ねぎ	白羽一本太、元蔵	夏秋どり

## VI 研究発表並びに普及事項

### 1. 研究報告・資料

#### (1) 研究報告

○小松勉・木村文彦・清水理沙. メロン黒点根腐病に対する有色マルチ利用による地温抑制管理の効果. 北日本病虫研報. 62:75-78(2011).

○福川英司・相川宗巖・坂口雅己. カーネーションの養液土耕栽培における施肥及びかん水作業の実態調査とその導入効果. 北農. 79(1):14-21(2012).

○大塚省吾・藤倉潤治・西村直道・塩田昌彦・廣嶋淳一・鎌田英宏・安中俊彦・山田卓良・平井秀明・米澤末廣. 未利用資源であるアスパラガス調製残渣の加工食品への有効利用. 北農. 78:139-143(2011)

○細淵幸雄・林 哲央・中住晴彦. 野菜畑土壌におけるカドミウムの施用資材による負荷量と可食部および作物残渣による持出し量. 日本土壌肥料学雑誌. 82:207-213(2011)

○大谷徹・田中千華・鈴木健・植松清次・角野晶大・成松靖・田中穰. イチゴ葉縁退緑病が果実収量および品質に及ぼす影響. 関東東山病害虫研究会報. 58:51-54(2011)

#### (2) 口頭発表

○安藤奈々瀬・松島肇・近藤哲也・生方雅男. 休耕地を利用した蜜源植物による花景観の印象評価と観光資源としての評価. 日本造園学会北海道支部大会(2011.10).

○生方雅男・五十嵐一朗・井出清貴. 地中熱交換システムを利用したバラの局所暖房・冷房の効果. 園芸学会(2012.3).

○大宮知・小林佐代・白峰真樹. ビブルナム‘スノーボール’における切り枝抑制開花の試み. 北海道園芸研究談話会報. 45:18-19(2012).

○八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅章・田中静幸・福川英司. メロンえそ斑点病およびワタアブラムシに抵抗性を有するメロン‘空知交20号’の育成. 園芸学研究. 10(別2):422(2011).

○八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅

章・田中静幸・福川英司. メロンえそ斑点病とワタアブラムシに抵抗性を有する赤肉メロン品種‘北かれん’の育成. 北海道園芸研究談話会報. 45:20-21(2012).

○八木亮治. 葉ざし繁殖個体を利用したメロンつる割病接種検定法の開発. 園芸学研究. 11(別1):127(2012).

○山本和哉・長野克則・中村真人・岡本淳・生方雅男・大江基明・水谷増美・中村靖・福村一広. 地中熱ヒートポンプを用いた加温・冷却システムの農業用ハウスへの適用. (社)空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会(2012.3).

○野田智昭・林 哲央. ハウス土壌還元消毒後のトマト栽培における施肥指針. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 57:140(2011)

○池田成志・能代昌雄・鈴木慶次郎・野田智昭・河原誠・浅野賢治・田宮誠司・染谷信孝. 緩効性肥料が植物共生微生物相に及ぼす影響. 2011年度日本土壌肥料学会北海道支部秋季大会講演要旨集. 19(2011)

○橋本直樹. 殺虫剤処理の異なるキャベツ圃場における天敵類の発生状況について. 2011年度日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催支部大会講演要旨集. p.9(2012.1.19).

○橋本直樹・岩崎暁生・古川勝弘・三宅規文・齋藤美樹・小野寺鶴将・荻野瑠衣. 北海道における殺虫剤削減レベルに伴う天敵種発生量増加の確認. 北日本病害虫研究会(2012.2.16).

○Yuichiro Iida・Pieter Van 'T Hof・Ioannis Stergiopoulos・Rahim Mehrabi・Henriek Been en・Ayumi Notsu・Masaharu Kubota1・Ali Bahkali・Kamel Abd-Elsalam・Fumihiro Teramil・Pierre J.G.M De Wit. Unique mutations in effector genes of a *Cladosporium fulvum* population in Japan have caused adaptation to different tomato Cf genes. International Union of Microbiological Societies(2011.9.6).

○井上康宏・鍛冶原寛・前田征之・野津あゆみ・中保一浩. 土壌からの青枯病菌の高感度検出法. 日本植物病理学会関東部会(2011.9.15).

○野津あゆみ. トマト青枯病に対する土壌還元消毒春秋期処理の効果. 北日本病害虫研究会大会(2012. 2. 16)

○野津あゆみ・鍛冶原寛・前田征之・瓦朋子・中保一浩. トマト青枯病に対する深耕土壌還元消毒と高接ぎ木の組み合わせ防除対策の効果. 日本植物病理学会大会(2012. 3. 30).

○鍛冶原寛・古橋典子・井上興・野津あゆみ・前田征之・瓦朋子・中保一浩. 高接ぎ木苗を利用した置き植え栽培によるトマト青枯病の発病抑制効果. 日本植物病理学会大会(2012. 3. 30).

○石原岳明・瓦朋子・鍛冶原寛・前田征之・野津あゆみ・中保一浩. 青枯病感染接ぎ木トマトにおける網羅的遺伝子発現解析. 日本植物病理学会大会(2012. 3. 29).

○前田征之・鍛冶原寛・野津あゆみ・瓦朋子・太田沙由理・古川勇一郎・白鳥豊・中保一浩. 青枯病抵抗性台木の高接ぎによるトマト青枯病の抑制効果. 日本土壌微生物学会 2011 年度大会(2011. 11. 26).

○Lan, W., Nishiwaki Y. and Kondo, N. Soft rot of root chicory caused by *Dickeya* spp. in Hokkaido, Japan. PSJ Annual Meeting 2012(2012. 3. 28)

○鈴木亮子 宿根カスミノウの越年株 5 月出荷作型における電照の効果. 北海道園芸研究談話会報. 45. (2012).

### (3) 著書・資料

○生方雅男. 北海道の作物管理. スターチス類. ニューカントリー 2011 年秋季臨時増刊号、259-263(2011).

○大宮知. 北海道の作物管理. カーネーション. ニューカントリー 2011 年秋季臨時増刊号、250-253 (2011) .

○大宮知. 北海道の作物管理. ゆり. ニューカントリー 2011 年秋季臨時増刊号、254-258 (2011) .

○黒島学. 北海道の作物管理. デルフィニウム. ニューカントリー 2011 年秋季臨時増刊号、264-268 (2011) .

○林 哲央. Q14 ~Q17. “土づくり Q & A 第二編 施肥・土壌診断・土壌の化学性”. 北海道農協「土づくり」運動推進本部 (2011) 30-37.

○林 哲央. 寒冷地ハウス栽培での土壌診断・生産性維持技術. “最新農業技術 土壌施肥 vol. 4 施肥量の低減”. 農山漁村文化協会 (2012) 175-185.

○林 哲央. 寒冷地ハウス栽培での土壌診断・生産性維持技術. “農業技術体系 土壌施肥編 4 土壌診断・生育診断 追録第 23 号”. 農山漁村文化協会 (2012) 実際 194 の 2-12.

○野津あゆみ. しろうり黒星病. 日本植物病害大辞典

○鈴木亮子 (共同編集). 北海道野菜地図 (その 35). 編集発行 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業共同組合連合会(2012)

○鈴木亮子. 北海道の作物管理. トルコギキョウ. ニューカントリー 2011 年秋季臨時増刊号 : 269-272(2011)

○鈴木亮子. 北海道の作物管理. アルストロメリア. ニューカントリー 2011 年秋季臨時増刊号 : 273-277(2011)

○高橋恒久 (共同編集). 北海道野菜地図 (その 35). 編集発行 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会(2012)

○川名淳二 (共同編集). 北海道フラワーガイド (その 20). 編集発行 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会(2012)

### (4) 専門雑誌・記事等

○生方雅男. 北海道での施設園芸へのヒートポンプの利用状況および研究状況、畑地農業、635、13-17 (2011) .

○生方雅男. 効率的な冷房方法とは一道内の研究状況、ニューカントリー、687、16-17 (2011) .

○大宮知. 小輪性ユリ「きらりシリーズ」の育成と生産. 農耕と園藝、67(3) : 29-33 (2012) .

○木村文彦. 機械収穫に対応した加工用ハウレンソウ栽培体系. 農家の友. 63(7) : 78-79(2011).

○木村文彦. ミズナ・ハウス移植栽培の施肥管理. 農家の友. 63(11) : 42-44(2011).

○木村文彦. みずな移植・中株栽培の窒素施肥基準. ニューカントリー. 58(11) : 52-53(2011).

○木村文彦. 加工用ほうれんそう機械収穫に向けた栽培体系の確立. ニューカントリー. 59(2) : 56-57(2012).

- 黒島学. もみがら資材を培土に利用した夏秋どりイチゴの高設栽培. 農家の友. 63(9):87-89 (2011).
- 黒島学. 夏秋どりいちごもみがら資材を培土に利用した高設栽培. ニューカントリー. 58(9):52-53(2011).
- 林 哲央. ニンジン栽培における化学肥料・化学合成農薬削減技術の高度化. 農家の友. 63(10):41-43 (2011.10)
- 林 哲央. 北海道さつまいも懇話会の設立. 農家の友. 64(2):86-87 (2012.2)
- 野田智昭. 土壌還元消毒後の施肥指針. ニューカントリー. 58(5):52-53 (2011.5)
- 野田智昭. 土壌還元消毒後のトマト栽培における施肥指針. 農家の友. 63(5):46-47 (2011.5)
- 野津あゆみ. 高接ぎ木法によるトマト青枯病の耕種的防除対策の強化. ニューカントリー. 697(4):50-51(2012)
- 高橋恒久. 特集 酷暑に負けない技術と資材活用 野菜の高温障害と基本技術 農家の友. 63(7):22-24(2011)
- 川名淳二. 特集 酷暑に負けない技術と資材活用 切り花の高温障害と基本技術 農家の友. 63(7):26-28(2011)
- 高橋恒久. 平成23年技術総括 野菜・果菜類 農家の友. 63(12):40-41(2011)
- 川名淳二. 平成23年技術総括 花き 農家の友. 63(12):44-45(2011)
- 川名淳二. 特集 2012作物展望 花き. ニューカントリー. 59(1):56-57(2012)

### (5)新聞記事・広報誌、放送等

- 木村文彦. かぼちゃの毛じ、HBCめぐり王国北海道 (2011.9.17)
- 鈴木亮子. 第57回全日本花卉品種審査会アスター(ハウス・夏咲き)の部、日本種苗新聞 (2011.9.11)
- 田中静幸. タマネギ百話、玉葱百話会・北海道新聞北見報道部編、238p (2011.8.10)
- 田中静幸. 家庭菜園の大きなトマト、十勝毎日新聞 (2011.8.27)
- 田中静幸. キャベツ「札幌大球」、TV朝日、ナ

- ニコレ珍百景 (2011.10.5)
- 田中静幸・福川英司・八木亮治. 公立機関における野菜品種の開発 (33)-北海道その2-, 種苗界、64(10)、26-37、(社)日本種苗協会 (2011.12.1)
- 中野雅章. 北海道キングメルター会40周年を祝す、園芸新聞 (2011.12.1)
- 八木亮治. 緑メロン品種「キングメルター」、北海道新聞朝刊 (2011.6.29)
- 八木亮治. マクワウリ「北海カンロ」、NHKおはよう北海道 (2011.7.6)
- 八木亮治. 赤肉品種の新品種「北かれん」、園芸新聞 (2011.12.1)
- 八木亮治. おいしくて病害に強い赤肉メロンを目指して. 北海道メールマガジン「D0・Ryoku」. (2011.5.13)
- 西脇由恵. トマト褐色根腐の多発要因解明と総合防除対策. あぐりぽと. No96:17(2012)
- 鈴木亮子. 晩秋期に向けたハウス花きの管理. 農業共済新聞 (2011.9.14)
- 高橋恒久. 経営と技術 検証道農業 ③野菜・施設. 日本農業新聞(2012.1.6)
- 川名淳二. 経営と技術 検証道農業 ④花き. 日本農業新聞(2012.1.7)

### (6)出願公表

- 八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅章・田中静幸・福川英司・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「北かれん」出願公表 26122号 (2011.7.4).
- 八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅章・田中静幸・福川英司・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「DHM-R3」出願公表 26123号 (2011.7.4).
- 八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅章・田中静幸・福川英司・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「DHM-R4」出願公表 26124号 (2011.7.4).

## 2. 印刷刊行物

本年度はなし

### 3. 普及事項

#### (1) 普及奨励事項

本年度は該当なし

#### (2) 普及推進事項

- 高接ぎ木法によるトマト青枯病の耕種的防除対策の強化
- トマト褐色根腐病の多発要因解明および総合防除対策

#### (3) 指導参考事項

- ホワイトアスパラガス伏せ込み栽培における省力化技術と必要経費
- かぼちゃの品種特性Ⅲ
- たまねぎみのる式ポット育苗における水分撥水防止剤「ワターイン」の灌水浸透効果
- 水田畦畔へのグラウンドカバープランツ導入指針（追補）
- 春掘りにんじんの品質特性と栽培法
- 天敵生物の発生量増加によるクリーン農業の環境保全効果の確認
- もみがら資材利用培地による夏秋どりいちご高設栽培の低コスト化技術
- かぼちゃに対する除草剤「ALH-0831 乳剤」の実用化
- にんじんに対する除草剤「SL-122 顆粒水和剤」（にんじん3～5葉期）の実用化
- ほうれんそうのべと病に対するマンジプロパミド水和剤Fの効果
- たまねぎの白斑葉枯病に対するペンチオピラド水和剤F（15日間隔散布）の効果
- たまねぎの白斑葉枯病に対するメタラキシルM・TPN水和剤Fの効果
- たまねぎの灰色腐敗病に対するクレソキシムメチル水和剤Fの効果
- たまねぎの灰色腐敗病に対するフルアジナム水和剤F（未登録）の効果
- たまねぎの灰色腐敗病に対するメトコナゾール水和剤F（未登録）の効果
- メロンのうどんこ病に対するイミベンコナゾール水和剤DFの効果
- だいこんのコナガに対するインドキサカルブ水

和剤DFの効果

- ブロッコリーのコナガに対するクロラントラニプリロール水和剤F（処理法変更・セル苗灌注）の効果
- ブロッコリーのコナガに対するフルベンジアミド水和剤DF（未登録・濃度変更）の効果
- ブロッコリーのコナガに対するインドキサカルブ水和剤DFの効果
- ブロッコリーのモンシロチョウに対するインドキサカルブ水和剤DFの効果

#### (4) 研究参考事項

本年度は該当なし

## VII その他

### 1. 職員の研修

#### (1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
※該当者なし				

#### (2) 職場研修（集合研修）

研修内容	実施月日	時間	講師	参加人数
職場研修（学位論文発表）	23. 4. 6	2:00	生産環境G・林主査（栽培環境）	30
職場研修（学位論文発表）	23. 10. 25	2:00	中央農試（生産研究部）・中村主査	23
職場研修（健康管理セミナー）	24. 2. 27	2:00	道総研本部産業医	21

### 2. 見学・参観

月日	団体名（人数）	月日	団体名（人数）
		7月13日	北石狩農協 人参部会（20） JAびばい イチゴ生産農家（10）
4月15日	JAきたみらい 訓子府町苺部会（9）	7月15日	北村花木山草栽培同好会研修会（21）
6月2日	北大大学院農学研究院リモセングループ（13）	7月25日	農村女性ネットワークかがやき（14）
6月6日	佐賀県 県議会議員（4）	8月1日	和歌山県農業大学校（32）
6月10日	北育ち元気村花き生産組合沼田支部（11）	8月12日	留萌・宗谷地区NOSA I 事業運営協議会（6）
6月14日	北見蔬菜組合員（33）	8月18日	ようてい農業協同組合 メロン生産組合（15）
6月16日	JAつべつ 女性部（20） 拓大野菜・花き実習生（59）	8月24日	佐呂間農業委員会（15） 北空知広域農協連 花き事業部（25）
6月17日	比布町農業協同組合 いちご部会（10）	8月29日	北空知指導農業士・農業士会（25）
6月21日	北石狩農協 青年部（20）	8月30日	長野県農業大学校（5）
6月23日	美幌町花卉生産組合（10）	9月5日	鹿児島県農業開発総合センター（1）
6月24日	JA新はこだて北渡島地区青年部（13）	9月20日	和歌山県農林水産総合技術センター（1）
6月28日	大澄かおる他（5）	9月27日	深川東高校 生産科学科（30）
6月30日	清里町農協 青年部（45） 峰延グリーンアスパラ生産組合（15）	9月28日	八紘学園 北海道農業専門学校（4）
7月1日	JA北はるか いちご生産組合（13）	10月28日	ダイオ化成(株)農業資材部（2）
7月8日	JAとよころ女性部（30） 一般財団法人美瑛町農業振興機構（36）	11月9日	石狩地方農業委員会連合会（20）
7月12日	常呂町日吉営農集団（14）		

月	団体数	人数
4月	1	7
5月	0	0
6月	13	258
7月	8	158
8月	7	123
9月	4	36
10月	1	2
11月	1	20
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	35団体	604人

### 3. 研修生の受入れ（研修事業以外）

#### (1) 普及指導員研修

##### 1) 新任者集合研修 7/4～7/12

研修項目	対象者	担当
道内主要野菜・花き栽培に関する基礎的技術の習得	渡島(南部) 山口泰輔	技術普及課、技術普及室、技術研修G、花き野菜G、生産環境G
	留萌(本所) 戸田詩織	
	宗谷(北部) 重盛峻介	
	網走(清里) 梅田悠佑	
	網走(清里) 伊藤 舞	
	釧路(本所) 坂本寿々子	
	釧路(中西部) 森 万菜実	
	根室(本所) 高見尚宏	

##### 2) 専門技術研修（野菜）6/28～7/1

研修項目	対象者	担当
道内主要野菜の花芽検鏡・接ぎ木技術・品質分析技術の習得	空知(南東部) 八重樫有紀	技術普及課、技術普及室、技術研修G、花き野菜G、生産環境G
	空知(中空知) 下田祐規子	
	後志(本所) 西川智子	
	胆振(東胆振) 宮原大助	
	上川(本所) 文木由理子	
	宗谷(本所) 犬飼厚史	

##### 3) 高度専門技術研修（野菜）7/25～8/11

研修項目	対象者	担当
トマト・メロ	胆振(本所) 尾崎紘子	技術普及課、技術普及室、
ン・いちご・か	上川(本所) 鴨下孝子	

ぼちや・葉菜類栽培技術の習得	上川(北部) 金田かおる	技術研修G、花き野菜G、生産環境G
----------------	--------------	-------------------

#### 4) 専門技術研修（花き）6/28～7/1

研修項目	対象者	担当
主要花きの品種特性、新技術、挿し木等の繁殖技術の習得	渡島(北部) 澤村三枝 日高(本所) 橋本和幸	技術普及課、技術普及室、技術研修G、花き野菜G、生産環境G

#### 5) 高度専門技術研修（花き）8/23～9/9

研修項目	対象者	担当
花き開花調節技術、品質保持技術等の習得	空知(本所) 松井梨恵 石狩(本所) 高田和明	技術普及課、技術普及室、技術研修G、花き野菜G、生産環境G

### 4. 委員会活動

#### (1) 各専門委員会の名簿

(平成24年3月31日現在)

##### ア. 業務委員会

大久保利道（委員長）、岩橋広樹（総務課）、大宮 知、大久保進一（花き野菜G）、田丸浩幸、野津あゆみ（生産環境G）、小田義信、及川 忠、南 貴夫、佐藤勝宏（技術研修G）

##### イ. 環境整備委員会

田中静幸（委員長）、岩橋広樹（総務課）、林 哲央（生産環境G）、鈴木亮子、及川 忠（技術研修G）

##### ウ. 情報・図書委員会

角野晶大（委員長）、深瀬秀太郎、土田操、木村文彦（花き野菜G）、林哲央（生産環境G）、井上昇（技術研修G）、橋本直樹（場内システム委員）

##### エ. 研修事業運営委員会

V 研修事業の概要参照

#### (2) 各専門委員会の活動

##### 1) 業務委員会

##### ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月7日～11月24日、毎週1回
- (イ) 冬期：12月22日～3月29日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月14日

#### イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事（排水路、暗渠）
- (エ) ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

#### ウ. 主催行事

- (ア) 植栽&ご苦労さん会 6月24日
- (イ) 収穫祭 10月28日

### 2) 環境整備委員会

- (ア) 展望台：ラベンダー、グラウンドカバープランツ、小果樹園の管理
- (イ) 庁舎前花壇：マリーゴールド他（6/21）、チューリップ（10/26）の定植
- (ウ) 旧十勝道路沿い：清掃、ハマナス、アジサイ等の除草、冬囲い
- (エ) その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

### 3) 情報・図書委員会

#### ア 情報図書委員会の開催

- ・第1回情報図書委員会(4月18日)：活動・予算計画、研修生ネットワーク利用規約改正
- ・第2回情報図書委員会(3月22日)：活動の総括、次年度に向けた懸案事項、年報・見学案内原稿依頼

#### イ 見学案内に関する事

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサル開催(5月20日)

#### ウ 場の広報に関する事

- ・平成22年度年報の作成とHP掲載
- ・ロビー設置ポスター及びちらしの展示・更新

#### エ 法人情報システム（含むホームページ）の管理・運営に関する事

- ・HPの更新（センターナウ7回、花インフォ9回、営農技術対策9回、研修情報他12回の合計37回更新）

#### オ 図書の整備（購入）および管理に関する事

- ・図書資料の受け入れと購入
- ・図書室の運営の改善（雑誌類の第2図書への移

動)

- ・成績書および定刊等の製本
- ・CD-ROMの整理(ケース購入)

## 5. 公開デー 2011 の実施

8月3日（水）中央農試遺伝資源部との共催により実施。

（来場者数：約400名）

（ア）屋内会場の催し物

○フラワーデザインセミナー（技術研修G）

○病害虫診断コーナー（生産環境G）

○土壌診断コーナー（生産環境G）

○園芸相談コーナー（技術研修G）

○パネル展示コーナー

○塗り絵コーナー

○展示温室：ダリア品種・花壇苗

（イ）屋外会場の催し物

○メロン新品種の試食(花き野菜G)

○花と野菜の苗当て・仲間当てクイズ

（花き野菜G）

○農業機械展示（技術研修G）

○農産加工品直売コーナー

滝川食と農を考える女性の会  
り・ふぁりーぬ

（ウ）ほ場での催し物

○ハウス圃場案内

○研修圃場の紹介

## 6. 講師等の派遣

○生方雅男. 畦畔へのグラウンドカバープランツ導入. 平取町 (2011. 4. 12)

○生方雅男. 花の栽培. さっぽろ緑花園芸学校. (財)札幌市公園緑化協会 (2011. 5. 19)

○生方雅男. グラウンドカバープランツの品目選定と栽培管理. JA峰延 (2011. 7. 8)

○生方雅男. 花・野菜技術センターにおける施設園芸研究の状況について. 組み込みシステム研究会 (2011. 8. 30)

○生方雅男・田中静幸. 宿根草の景観作りを兼ねた蜜源植物としての利用法. 地域産学連携支援委託事業、事業化可能性調査ワークショップ (2011. 11. 1)



- 生方雅男．新エネルギー等を活用した施設園芸低コスト生産技術について．北海道施設園芸高度化現地研修会（2011.12.20）
- 生方雅男．道総研における野菜の貯蔵関係の試験実施状況．地域産学連携支援委託事業、事業化可能性調査ワークショップ（2012.2.20）
- 生方雅男．再生可能エネルギー（地中熱交換システム）を活用した低コスト施設園芸生産の可能性．北海道施設園芸高度化フォーラム（2012.2.24）
- 生方雅男．再生可能エネルギー（地中熱交換システム）を活用した低コスト施設園芸生産の可能性．岩見沢地中熱協議会（2012.3.21）
- 生方雅男．水田畦畔へのグラウンドカバープランツ導入．北海道種苗協同組合平成23年度冬季研修会（2012.2.22）
- 大久保進一．春掘にんじんの品質特性と栽培法、北海道種苗協同組合平成23年度冬季研修会（2012.2.22）
- 大久保進一．高接ぎ木法によるトマト青枯病の耕種的防除対策の強化．北海道種苗協同組合平成23年度冬季研修会（2012.2.22）
- 大宮知・黒島学．花き生産者育種に関する懇話会（2011.3.1）
- 大宮知．ビブナム‘スノーボール’における切り枝抑制開花の試み．北海道種苗協同組合平成23年度冬季研修会（2012.2.22）
- 大宮知．JA美唄きたきらり講習会．（2011.5.18）
- 大宮知．JA美唄きたきらり現地講習会（2011.10.11）
- 大宮知．北空知広域連花木類部会反省会現地試験状況報告（2011.11.22）
- 大宮知．北海道種苗協会冬季研修会（2012.2.22）
- 大宮知．北空知広域連花木類部会勉強会現地試験状況報告（2012.3.12）
- 木村文彦．みずな移植・中株栽培の窒素施肥基準．非結球アブラナ科葉菜類4品目合同研修会（2011.4.28）
- 福川英司．北海道向け民間育成かぼちゃ品種の特性調査ほか．北海道種苗協同組合平成23年度夏季研修会（2011.8.31）
- 福川英司．かぼちゃ品種特性．平成23年度地域農業技術センター連絡会議（NATEC）研究交流会（2012.2）
- 福川英司．かぼちゃの品種特性ほか．北海道種苗協同組合平成23年度冬季研修会（2012.2.22）
- 八木亮治．メロンの品種特性．北海道種苗協同組合平成23年度冬季研修会（2012.2.22）
- 八木亮治．病害虫に強くておいしい赤肉メロン「空知交20号」．JAようてい栽培講習会．（2011.8.18）
- 八木亮治．病害虫に強くておいしい赤肉メロン「北かれん（空知交20号）」．第40回キングメルター会総会（2011.12.1）
- 八木亮治．病害虫に強くておいしい赤肉メロン「北かれん（空知交20号）」．第19回北海道メロンサミット会（2011.12.12）
- 八木亮治．高品質メロンの栽培技術について．富良野メロン研究会栽培講習会（2012.2.9）．
- 八木亮治．北かれん（空知交20号）試験栽培について．きょうわ農業協同組合メロン品種栽培講習会（2012.3.12）
- 野田智昭．農産物の鮮度保持．農業大学校畑作園芸機械施設演習．（2011.10）
- 野津あゆみ．果菜類の病害防除について．蘭越町農業未来塾（2012.3.19）
- 野津あゆみ．高接ぎ木法によるトマト青枯病防除対策．北海道植物防疫協会春期講習会（2012.3.16）
- 角野晶大．野菜栽培における土壌病害の特徴と対策について．留寿都村蔬菜生産組合研修会（2011.12.2）

## 7. 各種委員

- 長尾明宣．北海道園芸研究談話会幹事（2011.12.5）
- 生方雅男．ニセコ町再生可能エネルギー導入検討委員会副委員長
- 大久保進一．北海道園芸研究談話会幹事（2011.4.1）
- 川名淳二・生方雅男・黒島学．北海道切花品評会審査員．札幌市．（2011.7.21）
- 川名淳二・生方雅男・黒島学．北海道鉢花品評

会審査員．札幌市．(2011. 11. 24)

○黒島学．三石切り花審査会審査委員．新ひだか町．(2011. 7. 7)

○黒島学．鉢花品評会 2010 審査員．愛知県豊明市．(2011. 11. 23)

○田中静幸．北海道園芸研究談話会幹事 (2011. 12. 5)

○田中静幸．ISEA2012 (第6回食用ネギ類国際シンポジウム) プログラム委員 (2011. 4. 1)

○川名淳二．農業共済損害評価会・施設園芸共済部会・損害評価会委員．札幌市．(2011. 6/27, 2012, 2/28)

○高橋恒久．農業共済損害評価会・畑作物部会・損害評価会委員．札幌市．(2011. 6/27, 7/15, 11/17, 12/15, 2012. 1/19, 3/13)

## Ⅷ 自己点検への対応

### 平成23年度 点検表

番号	事 項	点数	備 考
4	H24から新規に実施する研究課題数	4	
25	経常研究課題数	12	
39	公募型研究への応募課題数	3	
57	一般共同研究課題数	3	赤肉メロン育種等
69	受託研究課題数	10	
98	研究成果発表会の開催件数	1	新技術セミナー(124名)
102	企業等向けセミナーの開催件数	3	基礎技術研修(14名)、フォローアップセミナー(16名) 産地支援セミナー(27名)
106	研究会等の開催件数	1	北海道さつまいも懇話会情報交換会(22名)
114	発表会・展示会等への出展件数	5	サイエンスパーク、道総研研究成果選集、新技術発表会 道央圏発表会、花野新技術発表会
126	学会やシンポジウム等での発表件数	27	
129	学術誌や専門誌への投稿論文数	4	レフリー(2)
139	企業等で活用された成果の数	14	うち道内中小企業数(6)
148	技術相談件数	343	うち道内中小企業数(80)
155	技術指導件数	50	うち道内中小企業数(41)
164	技術審査件数	2	
179	試験機器等の設備の提供件数	3	
207	研修会・講習会等の開催件数	4	新技術フィールドセミナー(18名)、総合技術研修(5名)、 フォローアップ(16名)、基礎技術研修(14名)
211	研修者の延べ受入人数	12	専門(5名)、総合(5名)、インターン(2名)
220	特許等の出願件数	3	「北かれん」、「DHM-R3」、「DHM-R4」
247	視察者・見学者の受入件数	35	604人
251	道民向けセミナーの開催件数	2	市民園芸セミナー(33名)、フラワーデザイン(30名)
257	公開デー等の延べ参加者数	397	
259	学会等役員・委員等件数	11	
261	国際協力事業等への協力件数	1	モンゴル
289	道関係部との連絡会議等の開催件数	17	北海道野菜ブランド品種認定委員会等
303	市町村との意見交換等の開催件数	5	
331	国内研修Ⅱ(学会等)の派遣件数	6	
335	国内研修Ⅱ(シンポジウム等)の派遣件数	4	
349	企業等への訪問件数	4	
364	関係団体等との意見交換等の開催件数	6	スイカ炭疽病報告会、北空知農業振興談話会等
409	ホームページ更新件数	39	
411	グリーン購入の金額	3796	千円

ISSN 1346-7506

---

---

平成23年度（2011）

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター年報

---

平成24年8月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800

Fax. 0125-28-2165 （総務課）

Fax. 0125-28-2299 （研究部、技術普及室）

---

---